

令和8年度 佐久市総合計画審議会第1部会（第1回） 議事録

日時：令和8年5月22日（金）
午前10時10分～11時20分
場所：佐久市役所議会棟 第2委員会室

【出席者】高橋部会長、小松副部会長、柳澤委員、遠藤委員、佐々木委員、
太田委員、鈴木委員、小嶋委員、三石委員、大井委員

【事務局】藤巻企画課長、井出(吉)主任、鷺見主任、大塚主任

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（伊坂委員）

2 議事

（1）第三次佐久市総合計画骨子案について
質疑、意見

部会長	議題の（1）「第三次佐久市総合計画骨子案について」事務局から説明をお願いします。
事務局	第三次佐久市総合計画骨子案について（第1章） 《資料1-2に基づき説明》
部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	骨子案は全体として項目が羅列されており、佐久市を知らない人が読んだ場合、どこの市の計画かわからない印象がある。課題は記載されているが、佐久市ならではの課題や、佐久市ならではの卓越性、ポテンシャルが見えにくい。佐久市の特性を生かして課題を解決していく姿勢が示されないと、希望が持てる計画になりにくい。 例えば学校教育であれば、「体験」と記載するだけでなく、佐久市ならではの農業体験、自然体験、体を動かして遊べる環境などを生かすことが考えられる。AIが活躍する時代においても、身体性や実体験は重要であり、佐久市はそこを重点的に取り組むというような方向性が見えると、希望が持てる計画になると思うが、いかがか。
事務局	指摘は第1部会に限らず、第2部会、第3部会にも関わる内容である。現状と課題の段階では、佐久市らしさが見えにくいという指摘はそのとおりである。

委員	<p>今後、方向性と現状・課題を基に、佐久市としてどのような取組を進めていくかを、次回以降の審議会で各課において検討した取組内容を提示する。その中で、佐久市の特徴ある教育や具体的な取組が示されるため、引き続き意見をいただきたい。</p> <p>立教大学との連携により、東京へ進学した佐久市出身の学生がインターンシップなどを通じて佐久市の企業と関わり、将来的なU I Jターンにつなげる取組があったと認識している。このような具体的な取組は、佐久市らしさを打ち出すものとする。</p> <p>一方で、探究学習が広がる中で、佐久市ならではの特色を生かすことと、各学校の特色を生かすことがどのように整理されるのか疑問である。佐久市全体で同じ方向に進めることで、学校ごとの特色が統一化されてしまう可能性もあるのではないかと懸念している。</p>
事務局	<p>探究学習については、佐久市教育委員会としても今後力を入れて取り組んでいきたい分野であり、佐久市の取組として書き込みが増えていくものとする。</p> <p>探究学習は、子どもたち一人ひとりが自らテーマを見つけ、その分野について思考を深める営みである。全体として探究を進めるからといって、佐久市の教育が画一化するものではない。義務教育段階でも高校段階でも、探究は現在の教育の流れであり、今後も強めていきたい。</p> <p>立教大学との連携については、U I Jターンにつながる取組であり、学校教育分野というよりも産業分野において整理する考えである。効果的な取組であると考えているので、連携がきちんと図られるようにしていきたい。</p>
委員	<p>学校教育の資料に、小中学校の不登校者在籍率の推移が掲載されている。不登校が大きな問題であるため掲載されたものと理解するが、割合だけでは実際にどのくらいの人数的なのかはわかりにくい。おおむねの人数を伺いたい。</p>
事務局	<p>小中学校を合わせて約350人である。最新の数値である。事務局としては、不登校対応や支援に力を入れていきたいという思いがあり、現状を示すために不登校者在籍率の推移を掲載している。</p>
委員	<p>現状と課題には「必要がある」という表現が多く見られる。これらを具体的な取組に落とし込んでいくことになる。</p>

事務局	<p>と思うが、全てを実施できるのかという問題がある。優先的に取り組むべきものを考える必要がある。</p> <p>また、コミュニティスクールに関わる立場から見ると、校長によって違いはあるかもしれないが、こどもが関心を持つことに寄り添い、関心を伸ばしていく取組が行われている。従来は学力が高いことを優秀と捉えがちであったが、今は体験やアウトプット、対外的な発表の機会が重要になっている。</p> <p>一方で、それを支える教員に余裕があるのかも考える必要がある。A I やデジタル社会が進む中、学校ではダンスなど新しい内容も扱われるが、教員によって指導できる分野に差がある。段階的に支援する体制づくりも必要ではないか。</p> <p>今の学校教育の在り方として、従来のように多くのことを記憶し、試験で答える教育は、A I に置き換えられる部分が大きくなっている。今後は、A I を使いこなす力や、人間にしかできない判断を育てる教育が求められる。</p> <p>そのため、体験や環境の中での学びを大事にすることが、現在の教育の大きな流れである。教員の負担が大きいことは認識しているが、教員だけが担うのではなく、地域の中の学校として、コミュニティスクールなどの協力を得ながら、体験など学校だけでは担えない部分を支えていくことが必要である。</p> <p>また、教職員の働き方改革も進めており、地域で学校を支える形が必要であると考えている。</p>
部会長	<p>続いて、順番が前後するが、第7章について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>第三次佐久市総合計画骨子案について（第7章） 《資料1-2に基づき説明》</p>
部会長	<p>事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。</p> <p>《委員からの質疑・意見は特になし》</p>
部会長	<p>続いて、第6章について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>第三次佐久市総合計画骨子案について（第6章） 《資料1-2に基づき説明》</p>

部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	<p>防災は人の命に関わる非常に重要な分野である。デジタル技術を活用した迅速な情報発信と、自助・共助・公助・近助の関係づくりは大事である。</p> <p>それぞれにできることが異なるため、公助でしかできないこと、共助でできることなどを明確にしながら、互いのつながりをつくる必要がある。区長の立場からも、こうした整理を進めてもらいたい。</p> <p>佐久市は防災に対する危機感が弱いと感じる。災害の危険性を踏まえ、早い段階から対応を進めてほしい。</p> <p>防犯について、令和6年度の被害額が非常に大きいことに驚いた。警察の話では、佐久市は詐欺被害額が長野県内でも上位であると聞いた。東京に近く、犯人が来て逃げやすいという地域性があるのではないか。</p> <p>佐久市の特殊性を踏まえた防犯対策を講じなければ、大変なことになる。網羅的に取り組むことも必要だが、被害の大きい分野に重点的に取り組むことも重要である。</p>
事務局	佐久市には東京に近いという地域性がある。そうした地域性を踏まえ、担当課と協議しながら、どのような対策ができるか検討していきたい。
委員	交通安全の観点から、白線が消えかかっている場所と舗装されていない道路が増えていると感じる。車で走っていて、どこが道路の中央なのかわかりにくい場所もある。予算が足りないから対応しないということでは、交通安全をいくら訴えても事故防止にはつながらない。お金を使うところを考えながら対応してほしい。
委員	白線については、市道では比較的対応されているが、県道では対応が進まない箇所がある。横断歩道が見えにくくなっている場所もある。市道、県道の連携が重要であり、防犯対策も含め、関係機関とつながりながら取り組むことが大事である。
部会長	先日舗装された道路を通った際、道路環境が整備されることで走行の快適さが大きく変わることを実感した。道路舗装や道路環境整備の重要性を感じた。
部会長	最後に全体を振り返り、御意見・御質問はあるか。

委員	<p>ケーブルテレビで中学校の入学式を見たところ、通常の学級の他に複数の学級があり、担任の先生も多く配置されていた。不登校や特別な支援を必要とするこどものための体制だと思うが、企業人の感覚では人件費なども気になる。</p> <p>塾でも、以前は1人の先生が複数人を見ていたが、現在は1対1が当たり前になりつつある。昭和の時代の感覚では理解しにくい状況になっていると感じる。</p>
事務局	<p>特別支援学級は増えている状況にある。担任の先生は基本的に県で確保していただくものであり、県教育委員会の人員配置も大変であると認識している。</p> <p>小学校1年生については、通常学級でも25人学級とし、1人の先生が見るこどもの人数を少なくする流れがある。先生の負担軽減と、個々の学びへの対応を図るためである。</p> <p>背景には、個別最適な学びを大事にする教育の大きな流れがある。また、こどもの数が減ってきているため、一定程度、教員を手厚く配置できる背景もある。</p> <p>特別支援学級については、佐久市では近隣市町村と比べても入級するこどもが多い印象がある。入級そのものが悪いことではないが、教室が不足するなどの課題もある。1度特別支援学級に入ると固定化しやすいことも課題であり、本来はこどもの発達や成長に応じて、学びの場を見直していくことが大切である。</p>
委員	<p>佐久平浅間小学校の周辺では、既に児童数が多く、教室が不足している。道路整備や周辺開発が進めば、更に住宅地化が進み、児童数が増えるのではないかと。学校の増築だけでは対応できなくなる可能性がある。</p> <p>将来の人口流入や開発を見込んだ上で、学校配置や教育環境を考えていく必要がある。</p>
事務局	<p>佐久平浅間小学校の南側の道路整備により、東側から西側に向けて開発が進む可能性があることは認識している。現在は水田であるが、道路が開けば開発が進む可能性があり、シミュレーションを行いながら見極めている。</p> <p>ただし、開発は行政による区画整理ではなく、民間開発による部分が大きいため、見通しが非常に難しい。長期的な人口推計を行い、慌てることがないように、一定の見直しを持って方策を検討していく必要がある。</p>

事務局	<p>骨子案の学校教育の現状と課題にも、開発に伴う人口流入、少子化に伴う人口減少など、各学校の児童生徒数の動向を留意し、適正な学校配置や教育環境について検討する必要がある旨を記載している。担当課の取組内容については、今後、学校の在り方検討委員会において示される予定である。</p>
部会長	<p>現在進めている取組は、過去に決めた計画に基づくものだと思うが、近年は社会の変化のスピードが非常に速い。今回の第三次計画も、策定した時点で遅いという状況になる可能性がある。</p> <p>現状と課題はしっかり整理されているが、職員の人数や時間には限りがある。何を優先し、場合によっては何をやらないのかも決めていく必要がある。命や暮らしを守ることが優先されるのではないかと感じる。</p>
事務局	<p>総合計画は、10年を見据える中で網羅的であるべきものと考えている。前期・後期としておおむね5年ごとに見直し、その時々々の社会情勢に合わせた内容としていく。</p> <p>優先順位については、総合計画の下に3年間の実施計画があり、更に単年度の予算がある。総合計画自体には、個別施策のスケジュール感を細かく記載するものではない。優先順位は、3年間の実施計画や単年度予算の中で整理し、議会の議決を経て具体の事業として進める仕組みである。</p>
委員	<p>感想になるが、教育関係のグラフを見ると、令和元年から令和2年頃のコロナ禍以降、参加者数が戻っていないことが気になる。生涯学習への参加者数や青少年育成の活動も、一度減った後に十分戻っていない。</p> <p>人間関係の希薄化が背景にあるのではないか。教育や社会教育の中で、人を集め、お互いの関わりをどう作っていくのが重要である。特に人権は人間関係に関わる分野であり、取組が伸びていないことに不安を感じる。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p>

(2) その他

部会長	(2) その他について、事務局から何かあるか。
事務局	骨子案については、6月の1か月間、パブリックコメン

	<p>トを実施する予定。</p> <p>次回の開催は、6月2日（火）午前10時から、佐久市役所6階602会議室となり、第三次佐久市総合計画における各施策の取組内容及び第二次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理として、第1章の教育・文化分野に係る審議を行う。</p> <p>昨年度も御審議いただいた進行管理については、資料は事前に配布し、当日の説明は割愛させていただく。</p> <p>次期計画の取組内容を中心に説明させていただき、進行管理も含めた質疑応答を行う予定。</p>
部会長	全体を通して何かあるか。
委員	配布資料の文字を大きくしてほしい。
部会長	他にないようなので、以上で本日の全ての審議を終了とする。

3 閉会